

平成30年度第1回福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会
平成30年8月3日（金）13：00～
福岡県庁_行政特9会議室（10階北棟）

平成29年度 全国健康保険協会 福岡支部 調査研究事業

1. 平成29年度実施概要

	事業項目	事業内容
1	レセプトデータの分析	<ul style="list-style-type: none">レセプトデータから、多剤投薬者・重複・相互作用・禁忌を抽出多剤投薬者・重複・相互作用・禁忌の課題を分析
2	患者アンケート調査/分析	<ul style="list-style-type: none">多剤投薬者に対するアンケートを実施多剤投薬者の服薬に対する意識を分析
3	医師・薬剤師インタビュー調査/分析	<ul style="list-style-type: none">医師・薬剤師に対するインタビュー調査を実施多剤投薬者への意識や現場での対応を分析

※継続中

多剤投薬等の改善へ向けた知見を探り、新たな事業展開へ



2. 用語の定義

項目	定義	補足
定期服薬	<ul style="list-style-type: none">処方日数が14日以上の内服薬剤を服薬していることただし、同月の同一医療機関からの同一医薬品の処方薬を除く	<ul style="list-style-type: none">短期処方の影響を除き、慢性期で通院している対象者を想定月に2回、同一病院での定期的な処方を考慮
多剤投薬	<ul style="list-style-type: none">定期服薬者のうち、7種類以上の薬剤を服薬していること	
重複投薬	<ul style="list-style-type: none">同月に、同一の薬効分類の医薬品が複数医療機関から処方されていること	<ul style="list-style-type: none">同一の薬効分類は個別医薬品YJコードの頭4桁が同じ場合とする
相互作用 禁忌	<ul style="list-style-type: none">同月に、医薬品の添付文書にある相互作用・禁忌の組合せが、同一または複数医療機関から処方されていること	<ul style="list-style-type: none">医薬品の添付文書（公的説明書）に記載されている全ての注意事項を含む

3. その他の説明

項目	説明	補足
薬局介在	<ul style="list-style-type: none">同月に薬局利用がない場合を薬局介在なし（院内調剤のみ）とし、一度でも薬局を利用している場合は薬局介在あり（院外調剤）とした	
その他 共通事項	<ul style="list-style-type: none">患者の個別IDは事業所記号、被保険者番号、性別、生年月日を用いて作成した当該月に入院レセプトのある患者は集計から除いた疾患数は当月に対象者に付けられていた全ての傷病名コードを使用(ただしコメントレコードも含む)医療費は公費負担を含む金額とした	

4. 結果

○レセプト分析の結果 5) ~11)

○患者アンケートの結果 12) ~19)

1) 調査対象者の情報

データ分析に使用したレセプトデータ

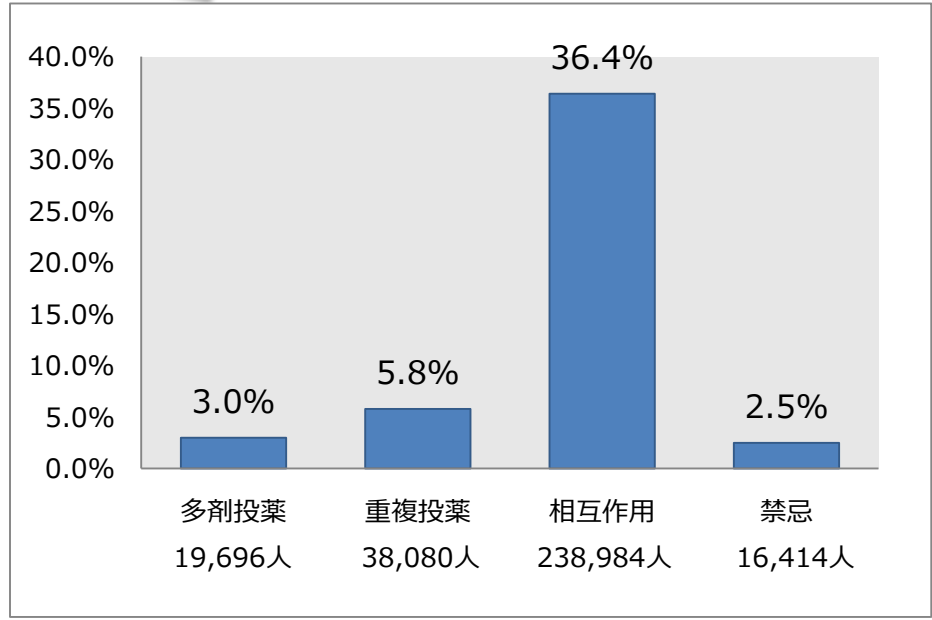
種別	単位	H28/12	H29/01	H29/02	H29/03	H29/04	H29/05	H29/06	H29/07
医科レセ	(件)	1,006,892	983,446	968,319	1,022,568	914,756	968,967	966,805	947,932
DPCLレセ	(件)	8,511	7,915	8,315	8,899	7,379	8,679	8,855	8,882
調剤レセ	(件)	679,710	661,104	652,201	688,453	609,317	644,531	629,757	611,214
合計	(件)	1,695,113	1,652,465	1,628,835	1,719,920	1,532,452	1,622,177	1,605,417	1,568,028

データ分析

アンケート対象者の抽出

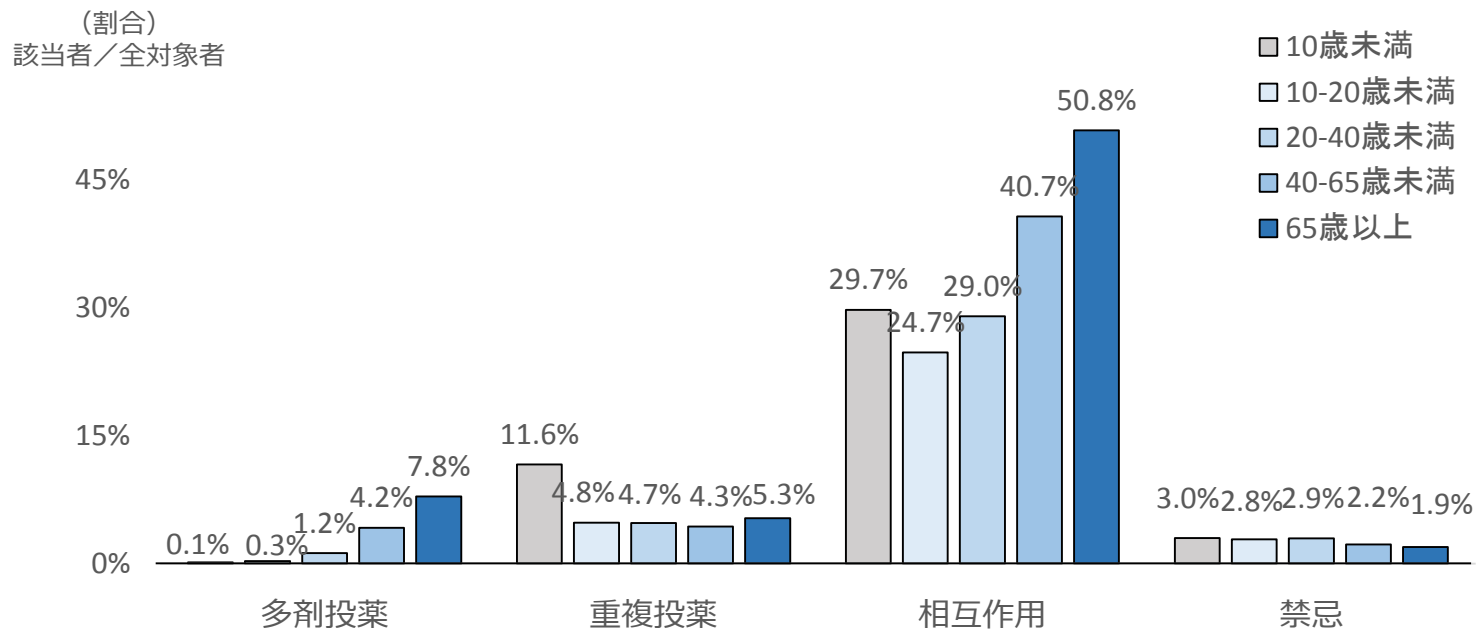
※診療内容については返戻分は考慮せず、初期請求を使用
 ※平成29/3月の請求分を使用したのは直近で件数が一番多いため

項目	全体	男女別内訳	
		女性	男性
患者人数 (人)	656,550	358,702	297,848
性別 (構成割合%)	-	54.6%	45.4%
年齢 (平均)	38.9	39.4	38.4
10歳未満 (%)	16.2%	14.1%	18.9%
10-20歳未満 (%)	8.4%	7.4%	9.5%
20-40歳未満 (%)	20.9%	24.0%	17.2%
40-65歳未満 (%)	42.2%	43.1%	41.2%
65歳以上 (%)	12.3%	11.4%	13.3%



2) 年代別の多剤投薬・重複・相互作用・禁忌の実態

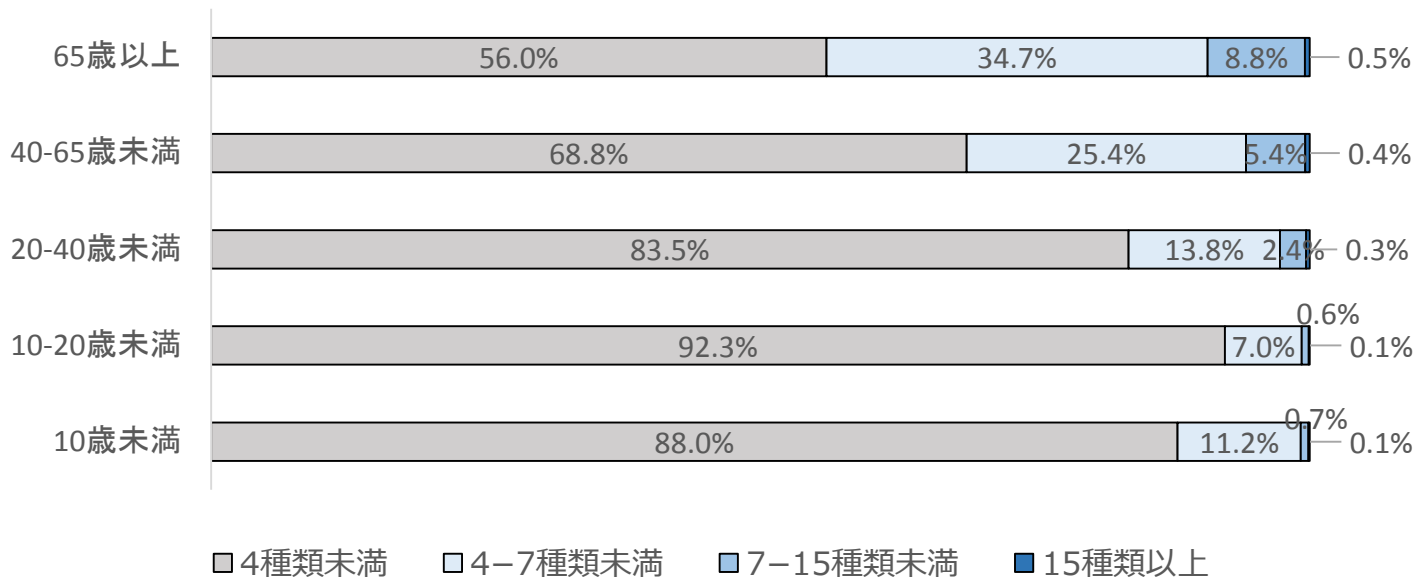
- 多剤投薬者は年代が上がるごとに増えていき、65歳以上では7.8%であった。
- 重複投薬は10歳未満が多かった。風邪などの長期化で複数医療機関の受診などが影響していると考えられる。
- 相互作用は年齢が上がるごとに増加傾向にあった。
- 禁忌は多剤投薬の割合とは逆に、若いほど多く10歳未満では3.0%だった。



※ 相互作用・禁忌は医薬品の添付文書上に記載されている全ての注意事項を含んでいることに留意

3) 年代別の薬剤種類数の構成割合

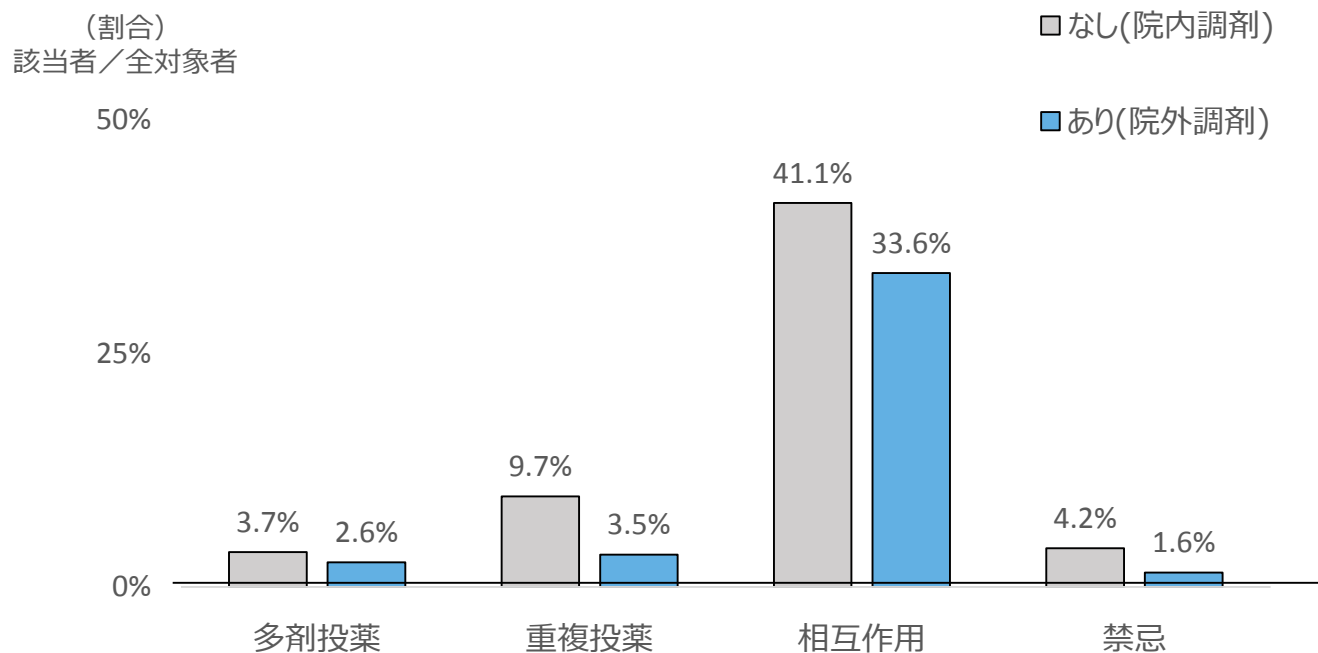
- 7種類以上の服薬をしている対象者は年齢が上がるごとに増加していた。
- 10歳未満は多剤投薬を受けている対象者が一定数いたが、疾患の背景として気管支喘息やアトピー性皮膚炎の罹患が影響していると考えられる。



※ 薬剤種類は14日以上処方された内服薬剤のみであることに留意

4) 薬局介在別の多剤投薬・重複・相互作用・禁忌の実態

- 薬局介在なし（院内調剤のみ）の方が、多剤投薬・重複投薬・相互作用・禁忌の何れにおいても院外調剤よりも多く発生していた。



※ 相互作用・禁忌は医薬品の添付文書上に記載されている全ての注意事項を含んでいることに留意

※ 月1度でも薬局の利用があれば薬局介在あり

5) 多剤投薬・重複・相互作用・禁忌の疾患背景（上位5疾患）

- 多剤投薬は高血圧、高コレステロール血症、慢性胃炎など、慢性疾患が多かった。
- 重複・相互作用・禁忌では、アレルギー性鼻炎、高血圧症が上位であった。
- 高血圧症は何れでも上位であった。

	多剤投薬	重複投薬	相互作用	禁忌
1位	高血圧症	アレルギー性鼻炎	高血圧症	アレルギー性鼻炎
2位	不眠症	高血圧症	アレルギー性鼻炎	高血圧症
3位	高コレステロール血症	未コード化傷病名	高コレステロール血症	未コード化傷病名
4位	慢性胃炎	不眠症	不眠症	急性気管支炎
5位	便秘症	気管支喘息	未コード化傷病名	便秘症

※ 疾患数は当月に対象者に付けられていた全ての傷病名コードを使用(ただしコメントレコードも含む)

6) 多剤投薬・重複・相互作用・禁忌の併用薬（上位5薬剤）

- 多剤投薬者ではベンゾジアゼピン系の睡眠薬等を含む、「催眠鎮静剤・抗不安剤」、「精神神経用剤」を併用していた。
- 重複・相互作用・禁忌では「解熱鎮痛消炎剤」が上位であった。総合感冒薬と解熱鎮痛薬の併用により、同一薬効である「解熱鎮痛消炎剤」が上位にきていることが考えられる。

	多剤投薬	重複投薬	相互作用	禁忌
1位	催眠鎮静剤・抗不安剤	解熱鎮痛消炎剤	催眠鎮静剤・抗不安剤	解熱鎮痛消炎剤
2位	精神神経用剤	眼科用剤	解熱鎮痛消炎剤	去たん剤
3位	血圧降下剤	去たん剤	血圧降下剤	血液代用剤
4位	消化性潰瘍用剤	鎮痛・鎮痒・収斂・消炎剤	去たん剤	その他のアレルギー用薬
5位	糖尿病用剤	その他のアレルギー用薬	その他のアレルギー用薬	主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの

※ 多剤投薬者の併用薬は14日以上処方された内服薬剤のみであることに留意
 ※ 不適切処方の併用薬は使用された全医薬品であることに留意

7) 減薬による医療費適正化効果額の算出

・7-15種類服薬者、15種類以上服薬者がそれぞれ1種類減薬することによる医療費適正化効果額は最大**約5.9億円**であった。

項目	単位	重複投薬	重複投薬 禁忌	重複投薬 禁忌 相互作用	式
1種類1日当たりの薬剤料×365日 ^{※1}	円/年	31,025	31,025	31,025	A
定期服薬者の数	万人	37.0	37.0	37.0	B
7-15種類服薬者の医療費適正効果額の推計 ^{※2}	億円/年	1.1	1.2	5.6	①=A*B*C*D
薬剤種類による減薬効果(仮定)	種類	1.0	1.0	1.0	C
重複/相互作用/禁忌該当者の割合	%	0.92%	1.04%	4.86%	D
15種類以上服薬者の医療費適正効果額の推計 ^{※2}	億円/年	0.2	0.2	0.4	②=A*B*E*F
薬剤種類による減薬効果(仮定)	種類	1.0	1.0	1.0	E
重複/相互作用/禁忌該当者の割合	%	0.14%	0.15%	0.31%	F
医療費適正効果額の合計	億円/年	1.2	1.4	5.9	①+②

※1 薬剤料はH29年3月調剤医療費の動向を参照

※2 全年齢の定期服薬者を含んでいることに留意

※3 7-15種類、15種類以上の定期服薬者でそれぞれ1種類減薬した場合の適正化効果額

8) 患者アンケート内容 (質問項目)

項目 (数)	内容	用途
生活習慣 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙習慣、運動習慣、食習慣、飲酒、睡眠 ・Breslowの健康習慣尺度 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康習慣を測定
アドヒアランス(12)	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬遵守度、医療従事者との協働性、服薬に関する知識、服薬の納得度と生活の調和度 ・上野式服薬アドヒアランスの尺度 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み残し、残薬推計
ヘルスリテラシー(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療知識の理解度 ・SILSの尺度 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療知識の理解度を測定
服薬行動・意識、治療意識・信頼度等(20)	<ul style="list-style-type: none"> ・多剤や副作用への不安等 ・独自に作成した項目 	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬行動・意識分析 (独自項目)
QOL (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・移動の程度、身の回りの整理、普段の活動、痛み、不快感、不安、ふさぎ込み ・EQ5D-5Lの尺度 	<ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果の算出
個人属性(8)	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢、性別、身長、体重、職業、教育、婚姻状況、家族の数 ・独自に作成した項目 	<ul style="list-style-type: none"> ・矛盾回答者の抽出、BMI算出 (Breslowの健康習慣尺度)、アドヒアランスへの影響等

計 53項目

9) アンケート対象者と回答割合

○アンケートの対象者は平成29年5,6,7月診療のレセプトデータのうち一度でも多剤投薬者（14日以上処方、7種類以上）に該当している40歳以上の者から1,500名をランダムに抽出し、平成30年3月6日に発送した。

○レセプトデータ情報と回答者情報で、年齢が2歳以上および性別が相違している対象者を矛盾回答者として除外した。

○回答割合は31.1%、有効回答割合は28.9%であった。

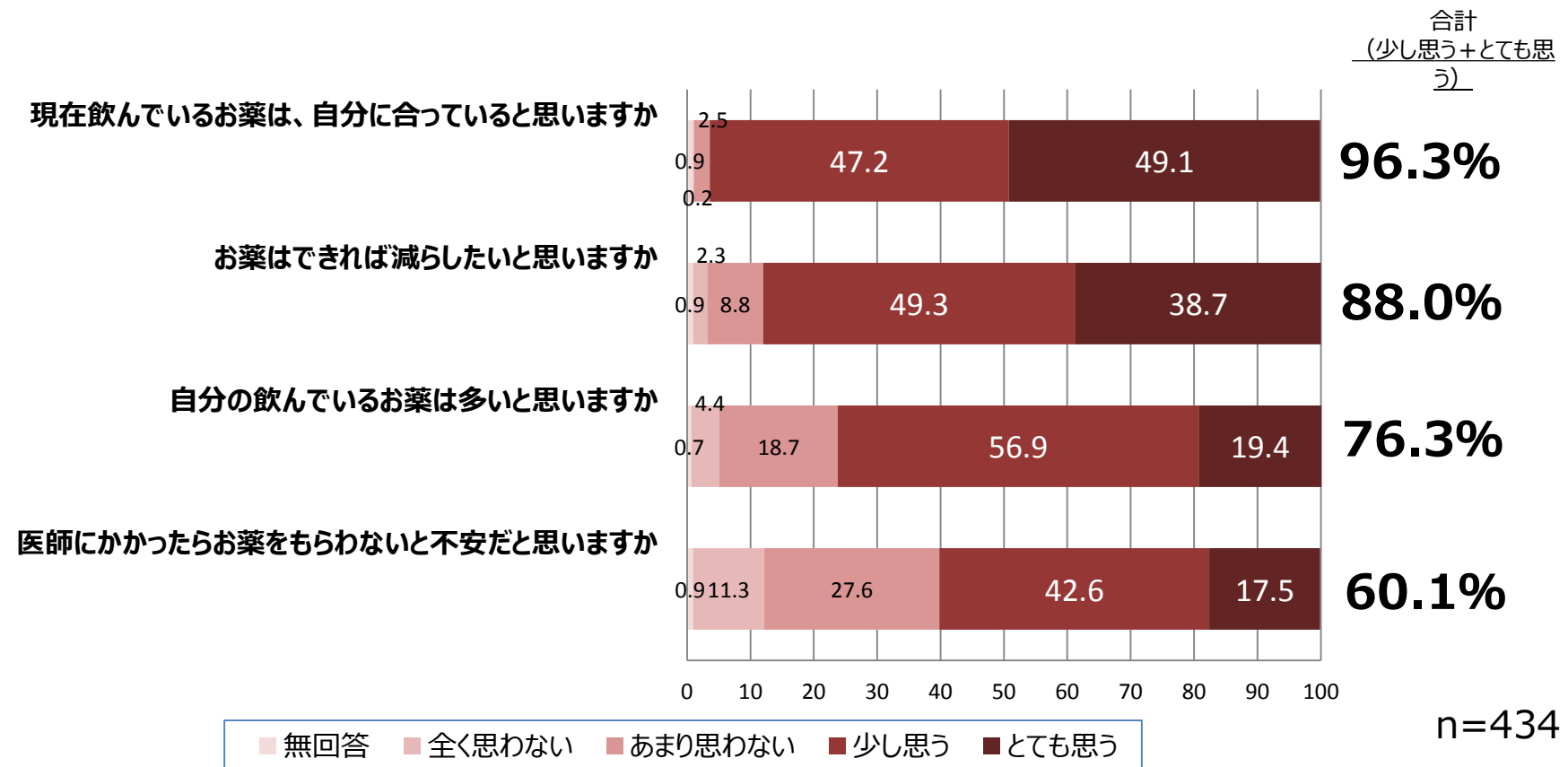
項目	全体	回答者※1	有効回答者※2
該当者人数（人）	1,500	466	434
該当者の割合（%）	100%	31.1%	28.9%
年齢（平均）	58.8	60.9	60.8
性別（女性割合）	32.8%	29.5%	28.8%

※1 平成30年5月17日到着時点までの回答者

※2 回答者のうち、矛盾回答を除いた者

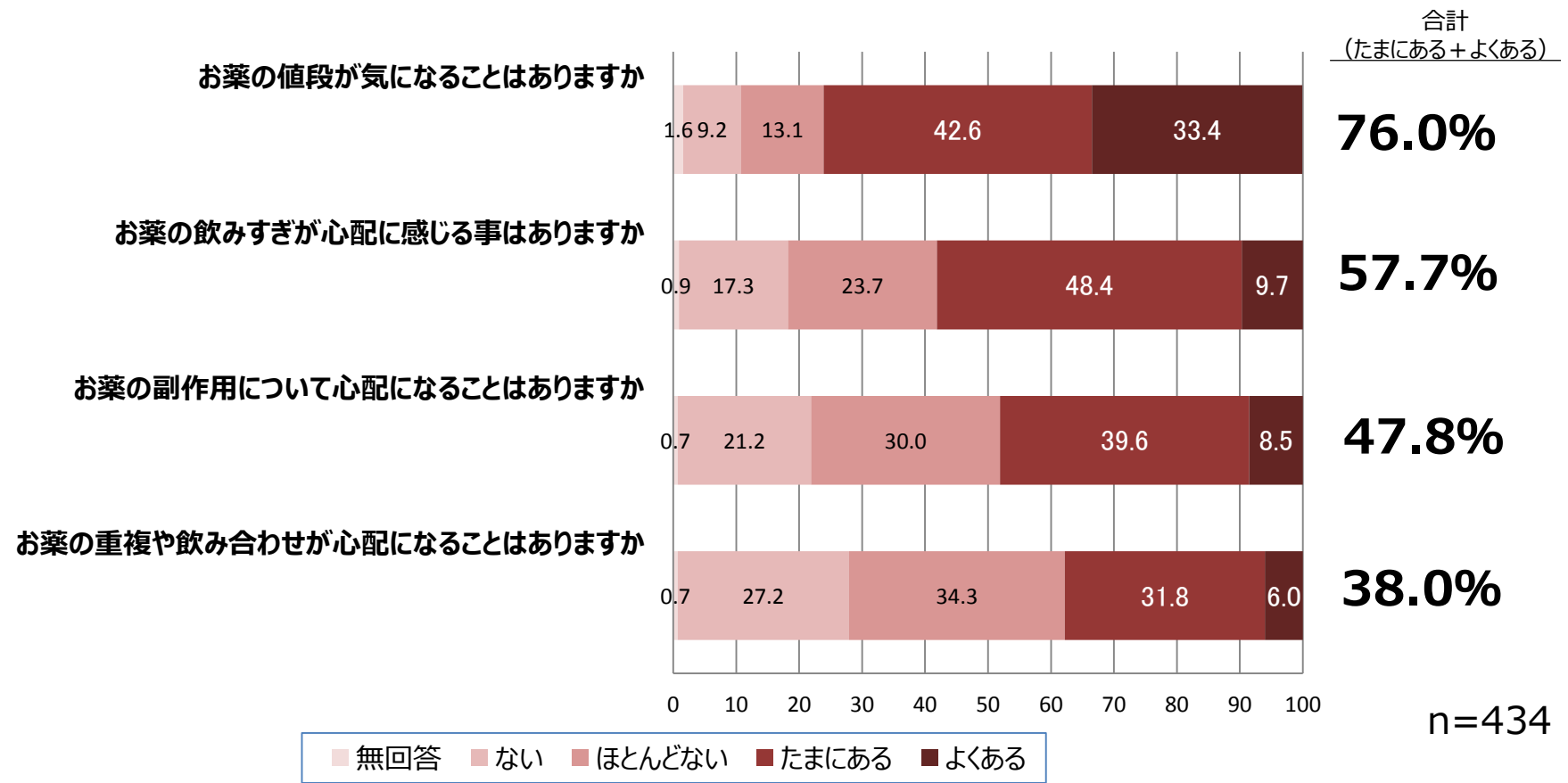
10) アンケート結果_多剤投薬者の服薬意識その1

○ほとんどの人（96.3%）が現在飲んでている薬は自分に合っていると回答していた。
 ○しかし、薬は自分に合っていると感じているにもかかわらず、多くの人「薬を減らしたい（88.0%）」「薬は多い（76.3%）」と回答していた。
 ○また、減らしたい・多いと感じているものの、60.1%の人が医師にかかったら薬をもらわないと不安だと回答していた。



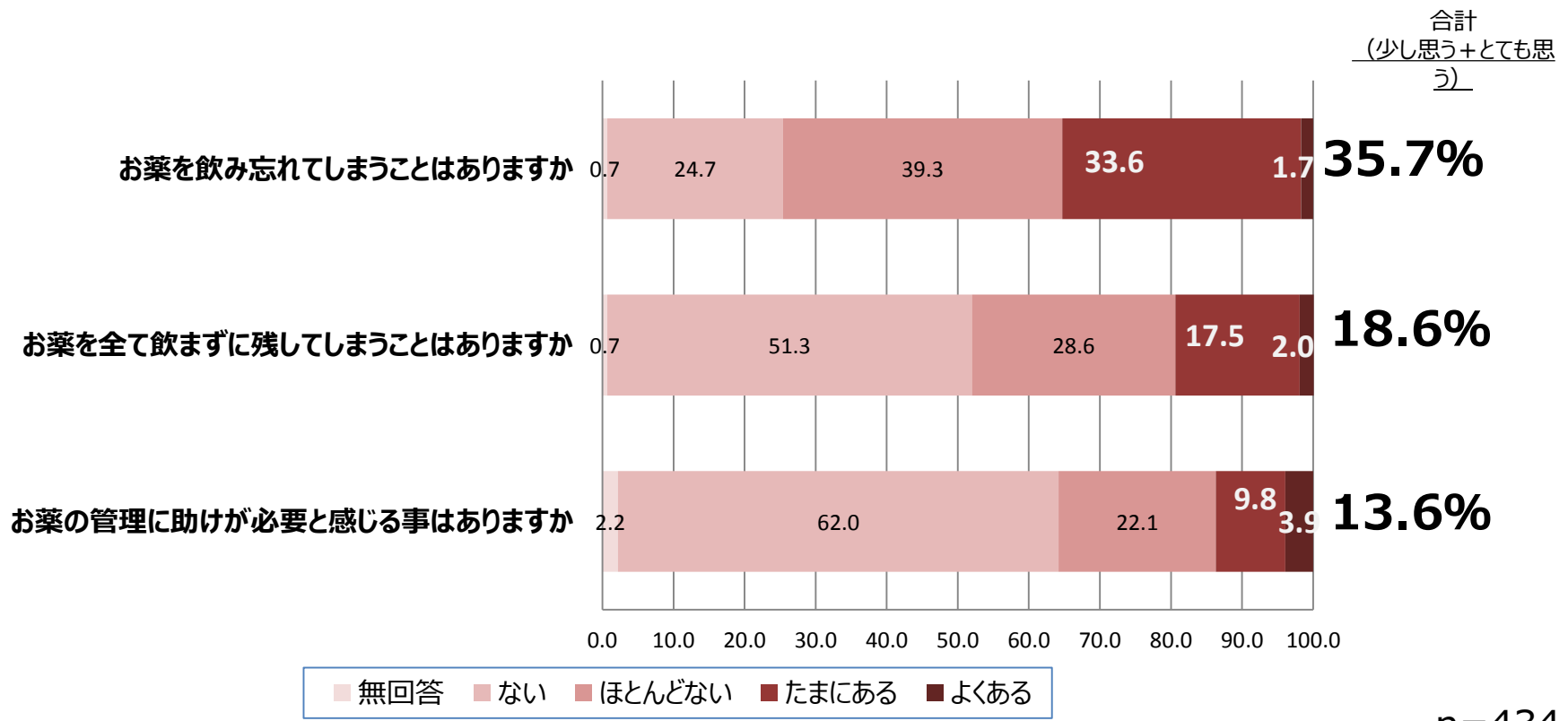
11) アンケート結果_多剤投薬者の服薬意識その2

- 薬に関する心配・関心としては、**値段**が最も多かった（76.0%）。
- また飲み過ぎ（57.7%）と副作用（47.8%）についても約半数は心配していた。
- 重複や飲み合わせに関する心配は38.0%と最も少なかった。



12) アンケート結果_多剤投薬者の服薬意識その3

- 飲み忘れをしてしまうと回答した人は半数以下であった。
- お薬を飲まずに残してしまうと回答した人は約2割ほどいた。
- お薬の管理に助けが必要と感じると回答した人はほとんどいなかった。



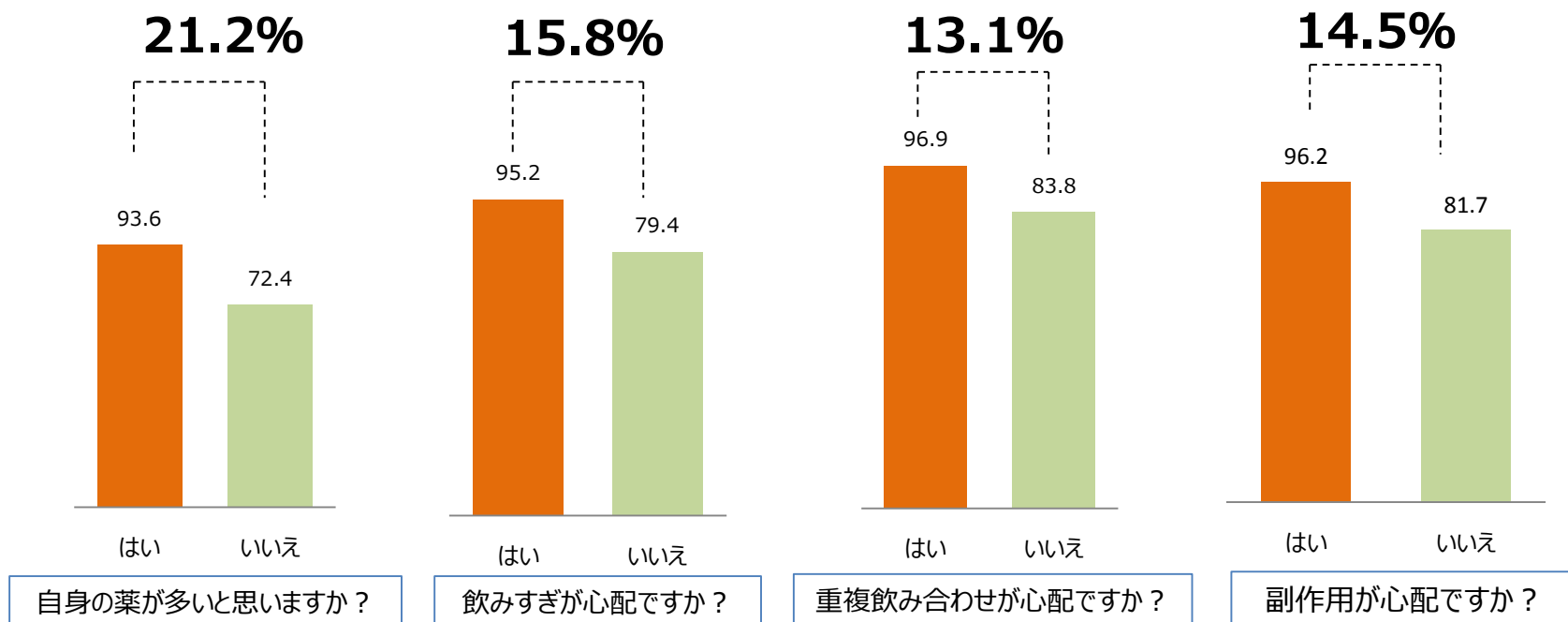
n=434

13) クロス集計_「薬をできれば減らしたい」人の特徴

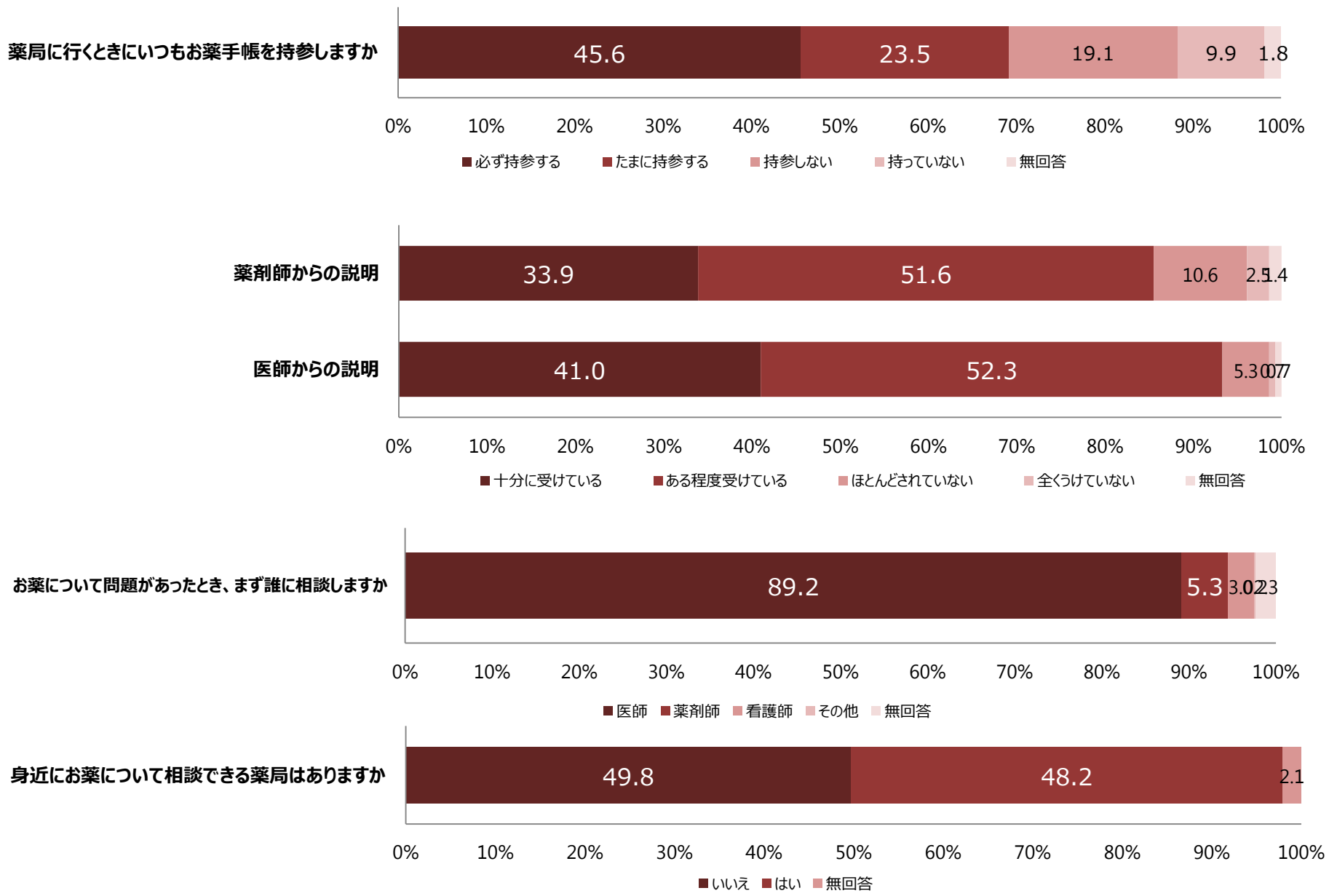
「薬をできれば減らしたい」と回答している人の特徴 －薬に対してどのような心配があるのか？－

○薬をできれば減らしたいと回答した人は、薬を減らしたくないと回答した人に比べて、「薬が多い」、「飲みすぎ」、「重複飲み合わせ」、「副作用」を心配している割合が高い。
→多剤投薬者は、薬が多いと思っている人や飲みすぎや重複飲み合わせ・副作用が心配な人ほど、減薬意識が高いと予測される。

「薬をできれば減らしたい」と回答した人の割合



14) アンケート結果_服薬に関する行動



【服薬意識・減薬意識について】

- 14日以上処方の内服薬を7種類以上服薬している人のうち、ほとんどの人が薬は自分に合っていると感じているにもかかわらず、多くの人「薬を減らしたい（88.0%）」「薬は多い（76.3%）」と回答していた。
- また、薬に関する心配・関心としては値段についてが最も多く、飲み過ぎ・副作用については約半数の人が心配していた。重複や飲み合わせに関する心配は最も少なかった。
- 飲み忘れや薬の管理などについては、問題はあまりみられなかった。
- 減薬意識との関連では、多剤投薬者は、薬が多いと思っている人や飲み過ぎや重複飲み合わせ・副作用が心配な人ほど、減薬意識が高いことがわかった。